

平成26年第5回臨時会

建設水道常任委員会  
会 議 録

期日：平成26年10月15日（水）

場所：大曲庁舎 第3委員会室

## 平成26年第5回大仙市議会臨時会会議録

---

日 時：平成26年10月15日（水曜日）午前10時20分～午前11時02分

---

会 場：大曲庁舎 第3委員会室

---

### 出席委員（7人）

委員長	23番	千葉	健	副委員長	6番	佐藤	育男
委員	4番	佐藤	隆盛	委員	18番	小松	栄治
委員	19番	渡邊	秀俊	委員	22番	高橋	敏英
委員	25番	本間	輝男				

---

### 欠席委員（0人）

なし

---

### 遅刻委員（1名）

委員長 23番 千葉 健

---

### 説明のため出席した者

建設部長	小松	春一	上下水道部長	岩谷	友一郎
道路河川課長	進藤	孝雄	道路河川課参事	佐々木	英雄
道路河川課参事	今	久	建築住宅課長	朝田	司
南外支所農林建設課長	佐藤	高義			

---

### 議会事務局職員出席

副主幹 富樫 康隆

---

### 審査議案等

議案第127号 平成26年度大仙市一般会計補正予算（第6号）

---

午前10時20分 開 会

○副委員長（佐藤育男） おはようございます。本日は本会議休憩中のところ、ご出席をいただきましてありがとうございます。委員長がちょっと、遅刻の届出がありましたので、私が進行させていただきます。どうかよろしくお願ひします。

只今より、建設水道常任委員会を開会いたします。遅刻の届出が23番、千葉委員長より提出されております。それでは当委員会に付託された事件について、別紙日程表のとおり審査いたしますので、よろしくお願ひいたします。

なお、正確な会議録の作成のため、発言をする際には委員長の許可、副委員長です、副委員長の許可を得たあとで、マイクのスイッチを入れてからお願ひをいたします。

審査に入る前に、当局からあいさつがありましたらお願ひをいたします。小松建設部長。

○建設部長（小松春一） おはようございます。常任委員の皆様には常任委員会を開催いただきまして、誠にありがとうございます。市長のあいさつにもございましたけれども、大変大型の勢力を保ったままということで接近する19号台風に備えましていろいろ準備を進めてきたところでございますけれども、ふたを開けましたところ雨・風ともたいした勢力でございませんで、道路・河川等のいわゆる公共土木施設につきましては一切被害がなかったということでございます。

さて、今臨時会でご審議をお願ひいたします案件は、市街地再開発事業において実施しております水路改修に係る公共施設管理者負担金等のほか、住宅リフォーム支援事業は申請件数の増が見込まれること、また、8月の豪雨により被災しました災害復旧事業に係るそれぞれの補正予算案でございます。詳しい内容につきましては、担当課長がご説明申し上げますので、よろしくご審議の上、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

○副委員長（佐藤育男） はい、ありがとうございます。それでは早速、審査に入ります。議案第127号、「平成26年度大仙市一般会計補正予算（第6号）」を議題といたします。なお、所管関係課の内容を一括説明をしていただきまして、まとめて質疑、討論、採決をしたいと思いますので、どうかご協力をお願ひいたします。

それでは当局の説明を求めます。はじめに進藤道路河川課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） それでは、議案第127号、「平成26年度大仙市一般会計補正予算（第6号）」のうち、道路河川課所管分について、ご説明申し上げます。

ます。

はじめに、事項別明細書により歳入についてご説明申し上げますので、資料No.2 補正予算書の7ページをお開き願います。

14款「国庫支出金」・1項「国庫負担金」・4目「災害復旧費国庫負担金」は、2,761万3千円を補正するものであります。これは、歳出において詳しくご説明申し上げますが、1節「公共土木施設災害復旧費負担金」において、「道路橋りょう災害復旧費負担金」を活用しての、8月豪雨の災害復旧に係る経費の補正であります。

同じく、2項「国庫補助金」・6目「土木費国庫補助金」・1節「道路橋りょう費補助金」626万1千円は、大曲通町地区第一種市街地再開発事業負担金における「社会資本整備総合交付金」としての補正であります。

次に歳出についてであります。資料No.2、補正予算書の10ページ、資料No.2-1、事業説明書は6ページをお開き願います。

8款「土木費」・2項「道路橋りょう費」・4目「道路新設改良費」・50事業「道路新設改良工事費負担金」は1,252万2千円の補正をお願いし、補正後の額を8,585万2千円とするものであります。再開発事業につきましては、去る9月18日に大仙市議会議員説明会において、企画部重点政策推進室より詳しい説明があったと思いますが、「大曲通町地区第一種市街地再開発事業」いわゆる「南街区」における公共施設管理者分の工事費負担金であります。工事費負担金は市街地再開発事業の実施に併せて、元の仙北組合病院西側に位置し、市が管理しております老朽化した排水路「通称：井戸堰」を暗渠化、さらに「歩道」として整備することにより治水機能と歩行空間を同時に確保する工事であります。この再開発事業は平成24年1月工事着工以来、3年5ヶ月にわたる工事を一括契約しております。この間、「震災復興事業」や「国の経済対策」、「消費増税前」の駆け込み需要増などにより建設資材費の値上がりや、人手不足による労務費の高騰が続いております。排水路改修工事については、暗渠規格及び製品の見直しや施工計画の見直しによる事業費の圧縮を図っておりますが、開削工事による周辺道路や建築物への影響を回避するための「仮設鋼矢板」の増工や、既設水路接続位置変更に伴う構造物の撤去による増工などに伴い、負担金を増額するものであります。この負担金の特定財源といたしましては、国県支出金として「社会資本整備総合交付金」626万1千円と、市債として「道路整備事業債」590万円の充当を予定しております。

資料「道路-1」をお開き願います。

1 ページ目に市街地再開発区域の位置図を、2 ページ目左側には再開発区域と排水路施工区間を赤の実線で示した配置図と、右側には「北街区」方面上流側から、及び下流側「市道丸の内黒瀬町線」からの既設排水路の写真を添付しております。このオープンな排水路をボックス型に改修し、完成後は歩道を兼ねた暗渠排水路へ整備するものであります。

次に資料No.2、補正予算書の11ページ、資料No.2-1、事業説明書は8ページになります。

11款「災害復旧費」・11事業「道路橋りょう災害復旧事業費（補助分）」は、4,140万円の補正をお願いするものであります。これは、南外地域において8月20日から22日にかけての豪雨により崩落した「市道松木田・岩倉線」など全4路線の復旧工事に要する経費であります。この地域では8月21日午後2時までの24時間雨量が、南外ダム観測地点において171ミリの降雨が確認された事により、「公共土木施設災害復旧事業」として採択されるものであります。特定財源といたしまして、歳入でも申し上げましたが国県支出金として「道路橋りょう災害復旧費負担金」2,761万3千円と、市債として「道路橋りょう災害復旧事業債」1,370万円の充当を予定しております。内訳であります。15節「工事請負費」は、災害復旧に要する経費として4,140万円の補正であります。

資料「道路-1」をお開き願います。

資料の3ページ目に南外地域の災害復旧位置図を、4ページ目からは「市道松木田・岩倉線」をはじめ被災状況の写真、全4箇所を順次添付しておりますのでご参照願います。なお、道路災害復旧につきましては、今月末に国の査定が予定されております。現在は通常の公共土木災害復旧国庫負担率66.7%で予算を計上しておりますが、「激甚災害の指定」が予定されており、よって今後国庫負担率の増高が見込まれております。いずれにいたしましても道路災害復旧につきましては、国からの災害査定を受けたあと所定の手続きを得て着工し、完成を目指すものであります。

以上、議案第127号、「平成26年度大仙市一般会計補正予算（第6号）」のうち、道路河川課所管分についてご説明申し上げましたが、よろしくご審議のうえ、ご承認賜りますようお願い申し上げます。以上です

○副委員長（佐藤育男） はい、ありがとうございます。次に朝田建築住宅課長、よろしく願います。

○建築住宅課長（朝田 司） 議案第127号、「大仙市一般会計補正予算（第6号）」

の建築住宅課所管分につきましてご説明申し上げます。

資料No. 2、補正予算書 10 ページをお願いいたします。

8 款 4 項 1 目 2 0 事業「住宅リフォーム支援事業費」につきましては 8 9 4 万 8 千円を増額し、補正後の額を 7, 5 0 3 万 4 千円とするものであります。この内容につきましては、資料No. 2 - 1 の事業説明書及び常任委員会資料「建住 - 1」によりご説明いたします。

はじめに事業説明書の 7 ページをお願いいたします。事業名「住宅リフォーム支援事業費」であります。委員ご承知のとおり、リフォームを行う市民に対して財政的支援を行い、居住環境の向上と市内住宅産業の活性化及び雇用の創出を図るものであります。今年度事業の目標は 4 0 0 件の申し込みを予定しておりましたが、9 月末時点での状況と昨年度の実績を参考に、最終申し込み件数を 4 5 7 件と予想し、今年の平均補助額を勘案し算出した額であります。申し込み件数が予想より増える見込みとした理由は、今年度から補助メニューとして創設した、雪に強いまちづくりの一環としての克雪対策を新設したことと、補助金上限の 2 0 万円に達するまでの再申請を可能としたことがあげられます。

なお、9 月末現在の申請件数は委員会資料「建住 - 1」にありますとおり、3 4 9 件で、昨年比 1 0 . 1 % 増であります。また、全体工事費で 8 億円以上の経済効果を算出しており、そのうち克雪対策工事では 1 億円以上の施工がされております。現在の推移からも市民の住宅リフォームに対するニーズは依然として高く、市内住宅産業の活性化等につながっていると考えております。なお、財源の内訳は一般財源となっております。

以上、補正予算の建築住宅課所管分につきましてご説明申し上げましたが、よろしくご審議のうえ、ご承認賜りますようお願い申し上げます。以上です

○副委員長（佐藤育男） ありがとうございます。只今当局の説明が終了いたしました。これより質疑を行います。質疑のある方はお願いいたします。はい、小松委員。

○委員（小松栄治） 進藤課長、よろしくお願ひします。この排水路整備工事の変更、まず、この事業概要についての説明がこのなかに載ってますな。これを読んでみますと、構造物の撤去、それから水路の接続位置を変更すること、あと、仮設の鋼矢板についてのそのまま、まず埋め殺しして処理すると。こうなったの金額が 1, 2 0 0 万ちょっとだすな。これの計算でせ、いきますと、事業費の圧縮を図ったところほかって書いてあるんだけど、どこのとこ事業費図ったものだがすよ。いわゆる前の事業費、排水路に係るものの事業費のなかですよ、なんぼ出ててせ、そし

てせ、この分1, 250万、いわゆる私、冒頭にお話あったとおりのいろいろな変更あるんすなんし。(聞き取り不能)だと。これが私たちわからねえどごだんすおな。だからそのあたり、まず話していただければありがたいもんだどもせ。お願いします。

○副委員長(佐藤育男) はい、進藤課長。

○道路河川課長(進藤孝雄) はい、副委員長。この排水路なんですけれども、当初ボックスカルバートということで、そういう構造物で約104mの施工延長でやる計画でございました。で、先程、小松議員のほうから、どれくらいの工事費増になって、どれくらいの圧縮を図っているのかという質問がございましたけれども、先程申しましたように資材の高騰、そういうものが考えられております。それで、従前の工事費でいけば7,362万7千円の工事費から、今回、このまま物価・労働費高騰による工事費増として9,422万9千円に膨らむ予定でございました。これを事業説明書に記載されたとおり、工事費を圧縮する方法として施工延長はほぼ変わりませんが、ボックスカルバートからエコンカルバートと、エコンボックスですね、そういうものに材料を変更してございます。ボックスカルバートというのは真四角なもので、排水をこうやるわけなんですけれども、エコンカルバートは俗にいうベンチフレームを反対にしたような形で底の部分がございません。底は現場打ちで水路の流れを確保する。現場打ち、そういうものに変えてございます。これで事業費が約、ここの部分だけで30%ぐらい軽減となります。また、かかる分として排水路の一部、こちら既存の排水路の壁がございませんので、その壁を利用して土留めを考えてございますけれども、その部分がない部分を鋼矢板を打ち込んで壁の代わり、安全対策の代わり、そちらを考慮して増工してございます。その部分、今回埋め殺しという表現をしてございますけれども、抜いて薬注をするよりも費用が軽減となりますので、それは埋め殺しにさせていただくと。もう一点につきましては、構造物の、コンクリート構造物の撤去でございます。既設の排水路なんですけれども、こちらのほう当初設計よりも非常にボリュームが大きくなってございまして、当初で178リューベ計算してございましたけれども、これが307リューベと、129リューベほど増える見込みとなってございます。こういう処理にかかる費用で1,252万2千円の増額となることとでございます。以上です。

○副委員長(佐藤育男) はい、小松委員。

○委員(小松栄治) まあな、粗々の説明はわかりましたけれども、へば、課長あれですか、既存のお金の場合は9,400万ほどの事業だと。で、それが7,360

万ぐらいになって見直しするとすれば、それにプラスするのが今の構造物とかいろいろの物があって1, 200万になると。この合計足せばわからねども9, 400万、7, 360万さ、そうすればあれだけ、1, 200なんぼがプラスされるということだけ、へばこれ。どういう意味なもんだが、ちょっとわからねえす。そこらあたり、お願いします。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） 申しわけございませんでした。説明がちょっと、数字が間違っていました。当初が7, 330万の工事費、予定でございました。それが合計で1, 252万2千円の補正で、8, 585万2千円と変更させていただきます。大変申しわけございませんでした。

○副委員長（佐藤育男） はい、小松委員。

○委員（小松栄治） まあ、3回目で終わるんですけども、まず、金額はわかりましたけれども、私、心配するのはこの矢板の鉄板すよ、あれ普通、業者さんが埋め立て、埋めると。やっぱり買ってやる人とリースでやる人といろいろありますな。やっぱりこれ、そのままのほうが経費かかるいんたども、鉄板の材料費がかなりかかっている。そのままやっちゃうとかえって損でねえかな、計算。私はそう見ますけれどもすよ。リースで借りて戻してやったほうが逆に安くあがるんでねえかなあということは、工事のほうから、設計のほうからどのように聴いたか。それだけもう一度説明をお願いします、矢板のことで。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長、お願いします。

○道路河川課長（進藤孝雄） いまのご質問なんですけれども、矢板をリースで返す場合と埋め殺してやった場合、まあ買い取ったほうが遙かに値段は高いというかたちになってございます。で、詳しい値段というのはわかりませんが、矢板を抜いてそこに薬注をしておかないと道路が崩れることを考えます。そうした場合、抜いたあとに薬注したほうが経費のほうはかかり増しするという計算で、今回は安全性も考慮いたしまして埋め殺しにするというかたちにしてございます。

○委員（小松栄治） 副委員長、お願いします、すいませんけど。

○副委員長（佐藤育男） はい、小松委員。

○委員（小松栄治） 説明はわかりましたけども、我々は納得いかねんすおな、それでは。普通、函渠は全部矢板抜くんすおな。そのあときちんとした土留め工法するのが普通だすおな。この鉄板埋めて、錆びておかしくなってしまうとだめだすおな。やっぱりこれはすよ、もう一回設計屋さんで相談したほうがいいんじゃない。なんでも

かんでも埋めてしまえばいいということではねえと思うんすおな、これ。そのあたりをすよ、もう一回お聴きしてもらえればありがたいもんだなあと思っております。それぐれえだすなんし。わからねがら、何年ぐらいもつんだが。

○副委員長（佐藤育男） 進藤課長いいですか。薬注というところの、ちょっと説明を、ちょっとお願いできますか。

○委員（小松栄治） まあ抜いてからの話だどもな。

○副委員長（佐藤育男） 抜いてからどういう処理をするか。

○道路河川課長（進藤孝雄） 薬注なんですけれども、抜いたあとに必ず、鉄板の隙間が発生します。今回は道路を開削するわけではなくて、用水路の安全性を考慮するための矢板を打ち込んでしまうということでございます。で、薬注というのは例えばベントナイト、そういうもので道路を固めてしまうということをひとつ。方法ですけれども薬注で鉄板の隙間から薬注をした場合、十分に充填なるかどうかということも考えられます。非常に矢板の延長が長いものでありますので、そういうことで今回は矢板を埋め殺しするというところでございます。

○委員（小松栄治） まあ、いいすどもよ、やっぱりすな、

○副委員長（佐藤育男） はい、小松委員。

○委員（小松栄治） 私なば、やっぱりすよ、できたならば矢板を抜いて、で、きちんと施工してもらったほうがすよ、いいんでねえかなあと思うんだけどもすな。矢板そのままやって何年もつもんだなか、その鉄板のよ。そう思ったりしております。不安な要素が残ってるなあと思ったりして。以上、終わります。

○副委員長（佐藤育男） はい、小松部長。

○建設部長（小松春一） 今回の場合は、結構、写真でご覧いただいたとおり、結構大きい水路で底までの深さもあります。で、すぐ当然ながら、その水路の沿線に道路あって、あまり大きくない道路幅員のさらに隣には、民家がズラっと並んでるような隠れた路線でもあります。で、当然道路の保護もありましたし、そういった背後地の住宅保護ってこともあって、矢板による土留めということを仮設的に当初は計画したわけなんですけども、やはり現場の判断からいって、あそこ、今の現在の水路というのは底打ちがなされていないような水路で、そのまま抜いてしまうと、道路のほかにも多分家屋にも影響を及ぼす可能性があるとおそれがあるということで。仮設というのは本来であれば抜くのが大原則なんですけども、これはやむなく現地の判断、現場の状況判断で埋め殺ししたほうが安全確保のために一番いい工法だろうということで判断したところですよ。

- 副委員長（佐藤育男） はい、小松委員。
- 委員（小松栄治） へば、最後です。まあ説明、現場のほうはそのままやって、そしてまず埋め殺しして。へば当然、その間さ側溝やることだすな。それでいいかもしれねどもよ、将来的に考えればすな。普通なばすよ、なんぼもつか、矢板の鉄板が何ミリの厚さでどういったもんなんだべかなあとと思います。だから、あんたたちそれでいいと思って判断したべど思うども、我々で見ればすよ、なんと、まず我々の場合だで、我々ばしでなく、ほかの人はなんと考えるかだどもよ、これ矢板そのままにして打ってやって、そのまま処理したど。それでもつもんだべがと、鉄板腐らねべがと、なんし。そんな感じが受けられたもんだがらすよ、それで心配してるとこだったす。あとはいいす。
- 副委員長（佐藤育男） 他にございませんか。はい、本間委員。
- 委員（本間輝男） この水路というのはあれですか、この市街地再開発組合の範囲内に入ってらかどうか確認します。
- 建設部長（小松春一） 入ってます。
- 委員（本間輝男） ます。
- 建設部長（小松春一） 今言った道路の、水路に隣接したというか、その水路に沿って、市道もありますけれども、その市道の半分、幅員の半分まで市街地再開発事業の区域になります。
- 副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。
- 委員（本間輝男） ということは、水路が入っているということでまず了解するんだけど、この工事は負担金という形で支出行為起こすんだけど、これ工事の発注者はどっちなる。
- 副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。
- 道路河川課長（進藤孝雄） はい、こちらは市街地再開発事業のほうの発注になります。
- 副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。
- 委員（本間輝男） 結局、負担金だから、まあ、どうのこうの言うわけでないけれど、発注は、へば、市街地再開発組合が発注主ということになるけれども、施工の管理運営については組合のほうさ全部まかせるというかたちでいいすか。
- 副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。
- 道路河川課長（進藤孝雄） 原則、管理運営は向こうでございましてけれども、要所要所で我々も工事の打ち合わせっていうもの入ってまして、工事の進捗状況、工事

内容を聴いてチェックかけて、この負担金を出すというかたちになってございます。

○副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。

○委員（本間輝男） 確認の意味だども、市街地再開発組合の範囲内だということがひとつ。発注者は組合がやると。それに関して、管理については市役所が応分の対応をするという解釈でいいすな。

○建設部長（小松春一） はい、そうです。

○委員（本間輝男） それで、三つ目の質問としては、この公共施設の整備・管理する事前協議というかたちになってるんだけど、事前協議というのはどういう協議したのか。と同時に、完成後引き継ぎということになるけども、どういう形で引き継ぎになるのか。時期的なことと工期的なこともあるし、それから、水そのものなもんだから、いろいろあると思うので、どういう協議してるのか確認の意味で伺います。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） はい、事前協議でありますけれども、これは当初、平成24年度中に公共施設管理者負担金の打ち合わせということで、数度にわたって詳細を詰めてございます。これは南街区だけではなくて、北街区も含めての協議でございました。で、この南街区につきましては、平成二十、昨年度ですね、平成25年度は用地の分の負担分。で、今年度が工事費の負担分というかたちになってございます。それから工期でありますけれども、この排水路の整備につきましては、今年の7月から11月までの工期となっております。で、9月末の進捗状況は40%の進捗がございまして、完成引き渡し後は当然管理者であります道路河川課に引き渡しを受けるわけでございますし、現在の水の管理でございまして、非常にこの井戸堰というのは水量が多い水路でございまして、先程ちょっと申し忘れましたけれども、この水界を軽減するために既設の流雪溝のポンプを活用して、ここ以外に一部水を排出してございまして、その残った水を仮設の排水ポンプを用いまして下流域に流している。それで工事費は少し軽減されてございまして、そういうかたちで今現在、水管理はしてございまして。

○委員（本間輝男） 副委員長、もうひとついいすか。

○副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。

○委員（本間輝男） あの、実はすよ、仙北組合病院、旧病院で、水害で、一部水害がおきた事例があったので、敢えてお聞きしたわけですが、決してあそこ高いわけでもないし、バックかかるような非常に危ないところだというふうに私なりに解釈

してるんだけど、そこら辺に関してもやっぱり組合との協議はされたのかどうか。高さの問題とかいろいろなことあると思うんだけど、そこら辺まで詰めてるのかどうか確認します。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） はい、ちょっと、

○委員（本間輝男） 部長でもいいです。

○副委員長（佐藤育男） はい、小松部長、お願いします。

○建設部長（小松春一） これ当然ながら管理者が市でありますので、水路・道路とも市が管理者でありますので、事業の特殊性から設計・施工は組合にお任せしたわけですがけれども、当然ながらその施工の方法だとか、構造・工法等については当然ながら、当然あとで引き渡しを受けるわけですので、事前協議並びに、これ実は水路の法線というか、法線も何回か実は変更しながらやってきました。どれが一番ベターだかってのはその都度その都度協議しながら。というのも、うちのほうの申し入れ事項が強く、主導型で実は協議してきたと思っています。で、一方では、数年前の大きな水つきが組合病院付近の冠水があったわけですがけれども、これ、既に区画整理事業で施工済の、この今施工済のすぐ下流側というのも区画整理でボックスで施工済で高さが決まっています。上下流の高さ決まっているものですから、その高さというのは、あとはただ繋ぐだけという形でありまして、この道路冠水についてはあの後、北都銀行の後ろに特殊マンホールというのが、大きいマンホール、元々区画整理で付けてあったんですけども、そこに排水ポンプを増強しております。2台設置して、まあ完璧だとはいえませんが少し増強しながら、そこについては対応しております。

○委員（本間輝男） はい、了解です。

○副委員長（佐藤育男） ほかに質疑、

○委員（小松栄治） ちょっと、もう一回、聞きたいこと。

○副委員長（佐藤育男） はい、小松委員。

○委員（小松栄治） 悪いっすな、ごめんなさいね。当初のよ、予算書、それから、このあと16%ぐらいの増しだすをなんし。で、当初の計画どおりやると、そして、大変不調法だども、いろんな工事が手間とか材料費が高騰になったので、3%とかそのぐらい上がってくるすおな。へばせ、当初の予算書の、要するに予算から何%、例えば工事変更しない場合なわけすよ。例えば今言ったとおり、矢板そのままにするとか、また下のほうの、底の現場打ちのコンクリート打設にするとか、そういう

のしないで、今までどおりのかたちで、今のボックス型のほうのやつとした場合で、鋼材とかあるいはコンクリ関係の、つまりなんぼ上がって、その差額せ、なんぼになったのか、それ知りてえなだす。わかるすべが。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） はい。当初7, 330万に対して9, 400万、9, 422万9千円、まあ9, 400万を超える額であれば、この部分そのまま工事をやった場合は上昇率は約28%と積算してございます。

○委員（小松栄治） んだべ、2, 100万ぐらいの増加なるげ。

○道路河川課長（進藤孝雄） 2, 000、そうですね、2, 100万円ぐらいの増加だったです。

○副委員長（佐藤育男） はい、小松委員。

○委員（小松栄治） んだからよ、本来であればそういう崩れるおそれもある積算、予算を設計屋さんが組んだはずだすおな。だから、我々見ると、その設計屋さんがどう考えたのかわからないけども、現場のほうの打ち合わせ、現場の方との打ち合わせ、施工業者の打ち合わせをしてらということになればすよ、まあそれもいいんだけども、不安要素は、手間暇をかけないでやるとしか見えないんた感じします、我々は。なもんだから、それを現場立入工事の、で、やるとかという変更で、すれ違いでいるんじゃないかなという気もします。まず、そうでないかもしれないけどもすよ。なんとなく変更、そういったかたちで変更契約結んでるもんでねえかなあって感じが見受けられるので、そうでないとすればそうでないということで返事してください。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） はい。この件につきましては、キチッと現場と管理者と、設計屋さんから言われたままではなくて、うちのほうの意見も反映しながらやっておりますので、施工についてはこのままでやらせていただきたいと思います。

○副委員長（佐藤育男） はい、よろしいでしょうか。ほかに質疑ありませんか。

○委員（佐藤隆盛） ちょっと副委員長、ひとつ。

○副委員長（佐藤育男） はい、佐藤委員。

○委員（佐藤隆盛） 今のこここのこの除雪はどっちから入ってきて、除雪するんだすか、今までやってきたすか。俺いつも気にしてらどこあるんだったども。今これ新たにこうなってこいば、どっちから入って、除雪。消雪なんてあっくら辺りねえど。これからなあれだべった、こっち今やってるから。今新しくできてきたとこ

からやって、どこさ溜めていく。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長。

○道路河川課長（進藤孝雄） いままでのこの井戸堰というのは流雪溝の代わりにもなってますので、区画整理事務所側方面から本通り方面へ抜けている、除雪していたと、しております。

○委員（佐藤隆盛） んだか、へばいいすども。ただ、俺だ、夜歩けばここらあたり、こう雪かかって、なんと言うかな、溜まってるわけでなくて、まあ溜まってるもんだっけから。だとすれば、今度のときはどっちから来て、なんに行くか、どこさ具体的に雪もっていくもんだべがと思って。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長、お願いします。

○道路河川課長（進藤孝雄） 今度の除雪につきましては、その、西1号線という名称なんですけれども、それは道路河川課のほうの発注におきまして消雪を整備する予定で、除雪ルートから今後はずれます。

○委員（佐藤隆盛） ああ、んだ、今後はずれる。だども前は、だって、除雪だったべった。

○建設部長（小松春一） あの、現況はあのおりで大きい水路だったもので、あそこの沿線の方々、向かいの水路に投げてらやつもあつたつたし、ただこれも大きい水路なので、機械除雪でも対応できてらったんです。今度は、今の水路がいわゆる暗渠化して、その上が歩道になりますので雪処理がなかなか難しいということで、それで消雪施設が。道路幅員もあまり大きくない道路ですので消雪化します。

○副委員長（佐藤育男） はい、よろしいでしょうか。ほかに質疑はございませんか。

○委員（本間輝男） 副委員長、もうひとつ。

○副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。

○委員（本間輝男） 南外の課長来てらながら、ちょっと伺います。グリーンロード、今通行止めなってますか。

○南外支所農林建設課長（佐藤高義） はい、8月21日の3時25分から通行止めにしております。

○副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。

○委員（本間輝男） 3,000万かけてこの市道中野・桑台線、まあ、かけてやるんだけど、今年度中はこれ通行止め継続するって意味だすな。

○南外支所農林建設課長（佐藤高義） はい、そうです。

○委員（本間輝男） これ工期はいつまでかかる。（道路河川）課長でもいいすよ。

○副委員長（佐藤育男） はい、進藤課長、お願いします。

○道路河川課長（進藤孝雄） この災害復旧の考え方ですけれども、災害復旧に関しましては、道路災害ですね、こちらに関しては1日も早い復旧を目指したいと考えておりますが、今後の工程からして10月末に国の査定を受けます。それから着工前に入札契約の手続きをするとすれば12月着工が、早くても12月になると思います。ですけれども、現地の道路状況からして市道中野・桑台線、災害箇所の盛土部分の状況、それから土質、または冬期間の降雪状況を考慮した場合、今、工期は年度内完成を目指すとさせていただきましても、気象条件の整った時期として雪解け後に施工したほうが施工の安全性、そういうもの、安全性、まあ完成度の高い道路に復旧するのではないかと考えておまして、利用者へご不便をおかけする時間が、期間が長くなりますけれども、場合によっては来年度への繰り越しも視野に入れた工期の設定をしてみたいと考えております。

○副委員長（佐藤育男） はい、本間委員。

○委員（本間輝男） 実はな、そういう、今答弁されたことを私心配してるんだども、非常にあそこ路線としては重要路線で、横手平鹿・湯沢の人方すごく歩くわけですよ。で、やっぱりこれ全面通行止めかけるとなれば、相当やっぱり案内板を前々さもっていかないと大変だと思うので、やはりあんた言ったとおり冬期間やってざまなものよりも、繰越明許なり継続費なりでもっていったほうが無難だなあと思ったりしてもあったので、十分検討してみたい。終わります。

○副委員長（佐藤育男） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（佐藤育男） なければ、質疑を終結いたします。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（佐藤育男） 討論なしと認めます。これより採決をいたします。

本件は原案どおり可決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副委員長（佐藤育男） 異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決すべきものと決しました。以上で当委員会に審査付託となりました事件の審査は、すべて終了いたしました。

なお、本委員会の「審査報告書」並びに「委員長報告」の案文につきましては、委員長並びに副委員長にご一任いただきたいと思います。ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○副委員長(佐藤育男) ご異議なしと認め、そのように決しました。これで、建設水道常任委員会を閉会いたします。ご苦労様でした。

---

午前11時02分 閉 会

大仙市議会委員会条例第29条第1項の規定により、ここに署名する。

平成 年 月 日

大仙市議会 建設水道常任委員会副委員長 佐藤育男